

地盤沈下検討調査の実施に対して

H22.6.24

第12回 環境専門委員会

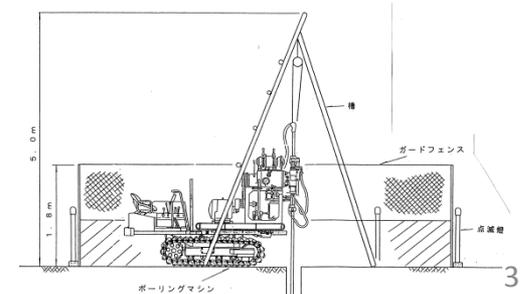
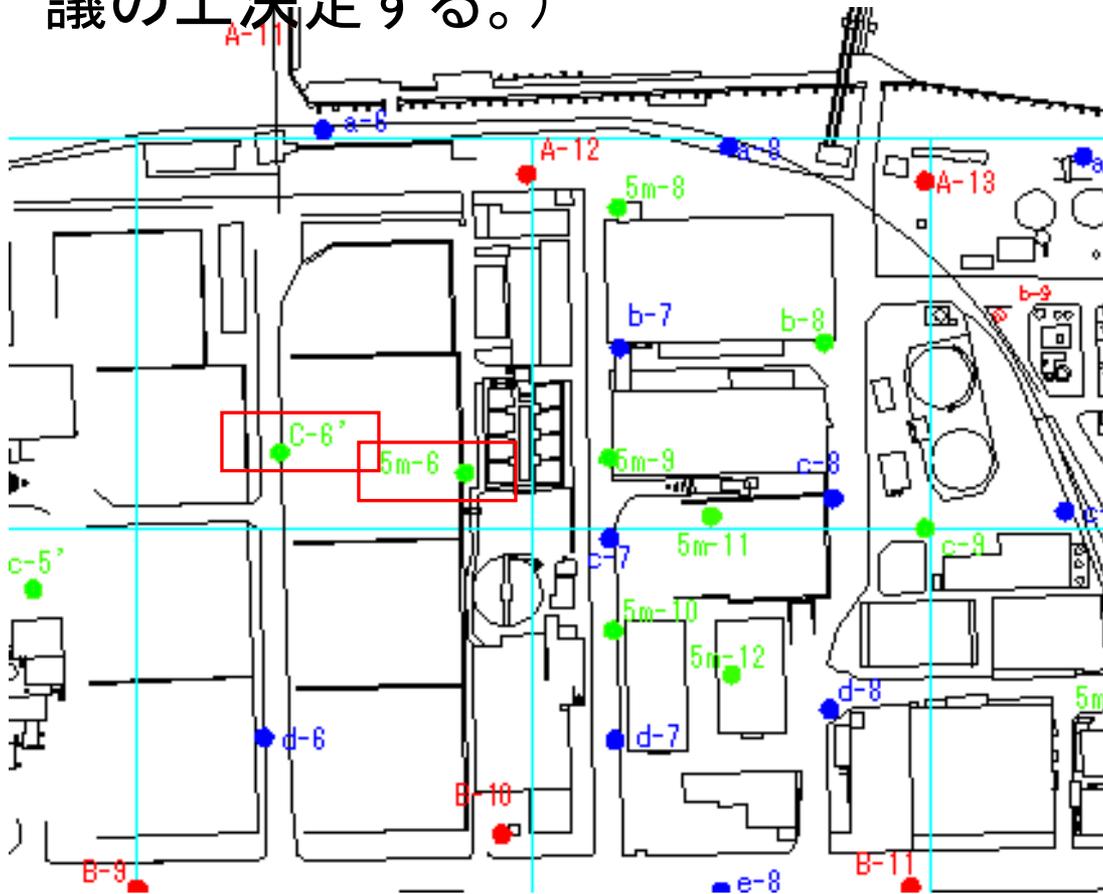
調査工程

- (1) 計画及び準備工 (計画書・段取り等)
- (2) ボーリング工 (仮設・撤去)
- (3) 標準貫入試験
- (4) 不攪乱試料採取(シンウォールサンプリング)
- (5) 室内土質試験
- (6) 報告書作成

1. ボーリング調査

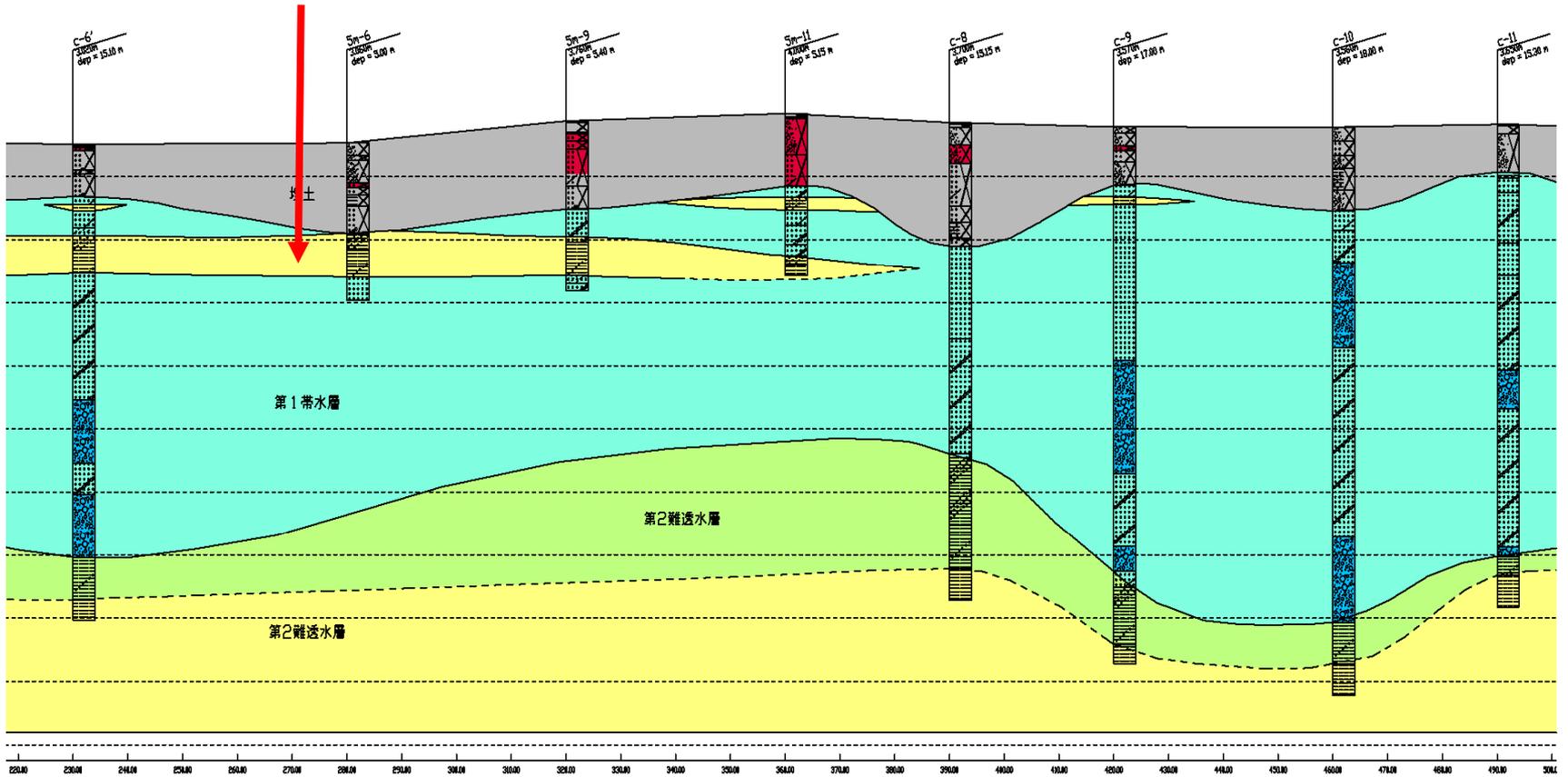
掘削方法：ロータリー式機械ボーリングマシンによる。

掘削深度：5mを計画。（打ち止めについては掘削状況に応じ協議の上決定する。）



調査地点 地質概要

試料採取位置（既存c-6' 地点もしくは5m-6地点横）

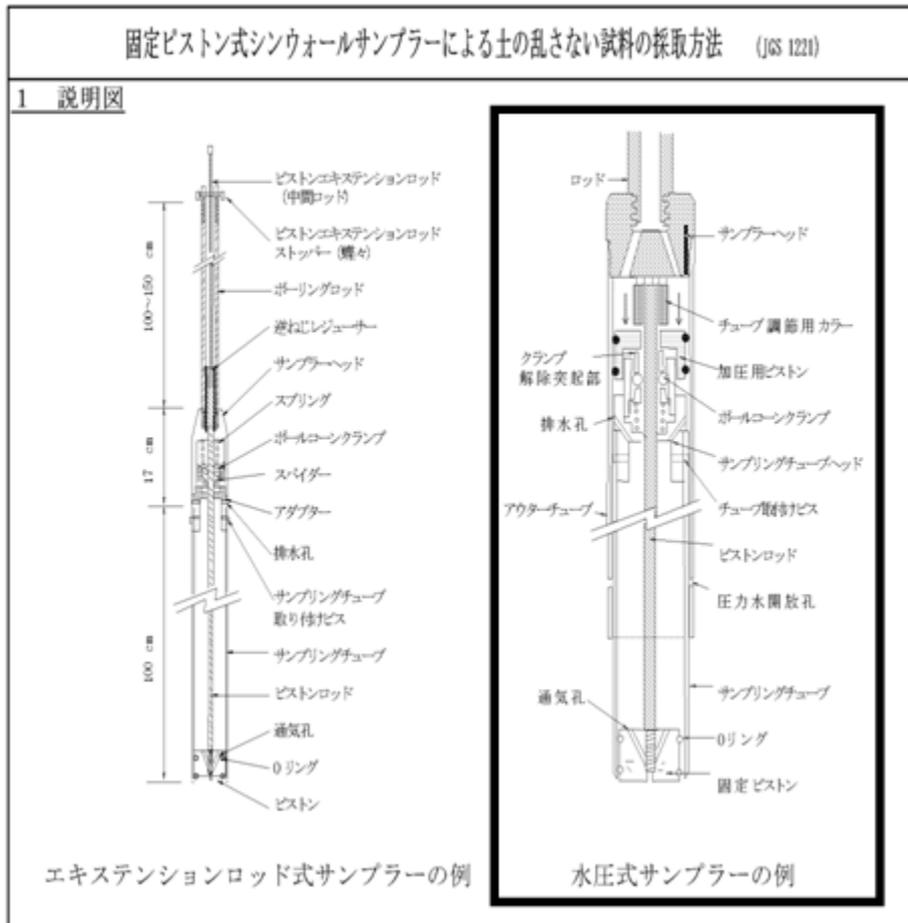


2 標準貫入試験

相対的な土砂の硬軟、締まり具合を知るために
N値の測定・標準貫入試験を行う。
同時に試料（攪乱状態）を採取し、土質の確認
及び物理試験試料の採取を行う。

3 不攪乱試料採取

地盤の室内力学試験試料を採取する目的で、固定ピストン式シンウォールサンプリング（水圧式）による不攪乱試料採取を行う。



シンウォールサンプリング
の概要図

4 室内土質試験

室内土質試験は、対象となる地盤の土質特性を把握するために実施する。

土粒子の密度試験， 含水比試験， 粒度試験，
液性限界試験， 塑性限界試験， 湿潤密度試験，
土の圧密試験の実施。

5 圧密沈下検討

室内土質試験結果をもとに沈下量の計算を行う。

今回の沈下検討の対象となる地層は、

埋土層中の粘性土 (GL-1.6~2.0m)

及び埋土直下、GL-2.8~4.3m粘性土となる。

(試料採取地点5m-6付近) なお、今回の沈下検討では第一帯水層の下位に分布する第二難透水層は対象としない。

沈下量の計算にあたっては、室内土質試験による圧密試験 (標準圧密) の結果をもとに、 Δe 法・mv法・Cc法により算定を行う。また、圧密時間についてはテルツアギーの一次元圧密理論により圧密時間を計算する。